DESCENTE

生存のすべてを託す、一球のシュートもある。

スポーツマンたちは激しい練習に耐える。それは満足のいくプレーを行うためである。
自らが描いたイメージを、自らの肉体によって実現することが、
彼らの目標であり、彼らのよろこびでもある。
それが無為な行為だとしたら、ロマンと呼んでいいかも知れない。
それこそが、スポーツマンたちの生活そのものであるから。
「アディダス」ハンドボールウェアは、最新の機能で彼らのロマンに応えます。

＝全日本男子チーム新監督＝
野田　清氏に決定!!

野田清新監督

9月8日の日本協会常務理事会で、全日本男子チームの新監督に野田清氏（38歳、大同特殊鋼）が決定した。

野田氏は、昨年4月、市原則之氏（湧永製薬）が全日本男子チームの監督に就任するのと同時にコーチに就任、ロサンゼルス・オリンピック・アジア地区予選を苦しみながら勝ち抜き、見事オリンピック出場を果たした。

この夏行われたロサンゼルス・オリンピック本番では残念ながら第10位の成績に終わったが、市原氏がオリンピック後辞意を表明した後の全日本チームを任せるのは野田氏が適任ということで強化委員会、常務理事会の全会一致の推薦で昇格した。

野田清氏は、昭和21年愛知県名古屋市に生まれ、昭和40年に立教大学に入学した。この立教大学時代に数々のタイトルを獲得、昭和43年、4年生の時に全日本のメンバーに選ばれた。サイドから独特のシュートは、立大でも全日本でも相手チームを脅かす武器として活躍を見せ、昭和44年立大卒業、大同製鋼（現大同特殊鋼）に入社した。大同でも中心選手として活躍を見せ、48、49、50年の3年間は全タイトルを大同が独占、黄金時代を築いた。また、47年のミュンヘン・オリンピックにも全日本メンバーの一員として出場、16チーム中11位という成績を収めた。昭和53年には大同の監督に就任、湧水薬品（現・湧永製薬）との〝二強時代〟を築く。

こうした華々しい経歴を持つ野田氏にかける期待は大きく、次回ソウル・オリンピックに向けて早くも始動する全日本男子チームに日本ハンドボール界あげて支援の態勢を作っていこう。

なお、コーチングスタッフ、選手の顔ぶれなどは、決定次第お知らせしょう。

立石電機にユーゴから2選手が加入
"本場"のプレーに大いに期待

大きな戦力　ビセルカ・ビスニッチ選手

日本リーグ女子一部チームの立石電機に、ロサンゼルス・オリンピックで、金メダルを獲得したユーゴスラビアから、ビセルカ・ビスニッチ（30歳）、ミレーナ・ジョルジェビッチ（24歳）の2選手が加入した。

立石電機には、昨年シーズンまで同じユーゴからカティツァ・イレシュ（カーヤ）が加わっており、その洗練されたプレーは、日本選手たちにも大いに参考になった。

今回来日の両選手は、カーヤよりも年齢的にも若く、特にビスニッチは現在のユーゴ・ナショナル・チームの大砲として活躍中ということで、その〝本場〟のプレーは注目に値する。

ロサンゼルス・オリンピックで韓国、中国のアジアの両チームが活躍を見せたのに刺激された日本の女子選手たちが、こうした本場のプレーを大いに吸収、ソウル・オリンピックに向けて大きくはばたいて欲しいものだ。

第13回全国中学校大会戦いの跡

男女とも関東が制す

男子

▽1回戦

西笹川（三重）18（9−4、9−9）13 城南（福岡）

城南	得		西笹川	得
緒方	0	GK	大橋	0
		GK	川島	0
高田	1	FP	栗田	0
小平	1	FP	野田	0
手島	0	FP	酒匂	2
井上	6	FP	村田	7
佐々木	3	FP	奥野	7
西岡	1	FP	伊藤	0
中村	1	FP	小林	0
宮田	0	FP	江守	0
田村	0	FP	石橋	2
長野	0	FP	多湖	0
	13			18
PT	(1)		PT	(1)

（審・島崎、小山）

○…前半城南のミスが目立ち、その分得点差となる。後半、城南も2点差まで追い上げたが、逆転までは至らず、西笹川が逃げ切った。城南GKは、再三にわたり良く守った。（中村、馬場）

新東淀（大阪）21（9−3、12−9）12 下松（山口）

下松	得		新東淀	得
湯浅	0	GK	福島	0
上野	1	GK	森浦	0
友岡	2	FP	斎藤	0
福本	2	FP	坂本	2
岩崎	2	FP	鳥平	8
藤井	3	FP	伊藤	2
湊	0	FP	原	0
河村	1	FP	児島	8
中山	2	FP	阪田	0
高橋	0	FP	内田	0
武田	0	FP	浅野	1
掛川	0	FP	浜田	0
	12			21
PT	(0)		PT	(5)

（審・中村、馬場）

○…下松は、新東淀の堅いディフェンスを破れず、攻撃が単調になった。新東淀は、鳥平を中心にセット、児島の速攻などで得点を重ね、勝利をつかんだ。（中井、河戸）

衣川（開催地）27（11−6、16−4）10 湯川（北海道）

湯川	得		衣川	得
吉田	0	GK	楠木	0
紅谷	0	GK	木村	0
寺島	1	FP	堺	3
黒島	3	FP	山沢	6
下川原	0	FP	稲村	6
湊	0	FP	坂口	4
辰野	5	FP	鶴谷	2
柳瀬	0	FP	橋本	2
館脇	0	FP	石井	1
西村	0	FP	西野内	0
佐々木	1	FP	吉川	0
岩崎	0	FP	成定	3
	10			27
PT	(0)		PT	(2)

（審・中井、河戸）

○…前半衣川が先取点をあげたものの、両チームともに堅さが見られた。しかし、衣川は5分過ぎに速攻を決めペースをつかむと5点を連取した。一方湯川は、なかなか堅さがとれなかったが、13分過ぎから自らのペースに持ち込み、点差をちぢめた。

後半に入ると衣川の速攻が冴え着実に加点、一方的な試合となった。湯川にもう少し工夫が欲しかった。（上野、中島）

呉羽（富山）20（10−9、10−10）19 中野（埼玉）

中野	得		呉羽	得
佐藤	0	GK	松井	0
円藤	0	GK	川岸	0
中込	2	FP	舛谷	4
山崎	1	FP	藤井	7
水上	0	FP	北條	1
木村	0	FP	小林	6
伊藤	11	FP	川上	1
馬場	2	FP	斎藤	1
中村	0	FP	塩井	0
浜田	2	FP	朝倉	0
宇井	1	FP	中西	0
安藤	0	FP	川上	0
	19			20
PT	(4)		PT	(2)

（審・上野、中島）

○…中野の組織プレーと呉羽の藤井、小林のロングシュートの戦いとなり、相方力を出し合って前半1点差の緊張したゲームとなる。後半も1点を争う展開となり、終了1分前呉羽1点差を守り切って逃げ切る。中学生として好感の持てるゲームであった。（島崎、小山）

小禄（沖縄）19（9−6、10−4）10 御幸（石川）

御幸	得		小禄	得
東	0	GK	我謝	0
佐藤	0	GK	長嶺	0
福当	2	FP	瀬名波	4
村井	2	FP	長嶺	0
出上	0	FP	赤嶺	0
中村	5	FP	上原	8
松見	0	FP	下地	0
田端	0	FP	上原	3
中井	1	FP	仲村	4
田端	0	FP	平良	0
幸山	0	FP	奥間	0
		FP	當間	0
	10			19
PT	(1)		PT	(1)

（審・島崎、小山）

○…前半は混戦だったが、後半小禄は堅いディフェンスから着実に得点し、勝負を決めた。（中村、馬場）

岩出（和歌山）32（18−8、14−7）15 土佐（高知）

土佐	得		岩出	得
中山	0	GK	井上	0
松下	0	GK	岩崎	0
田所	6	FP	中芝	8
中沢	0	FP	下津	5
毛利	1	FP	宮城	9
片岡	0	FP	下津	0
池本	2	FP	小嶋	3
片山	0	FP	土井	4
大原	4	FP	和田	0
西木	2	FP	二階堂	1
中辻	0	FP	榎本	1
佐野	0	FP	南之園	1
	15			32
PT	(1)		PT	(6)

（審・中村、馬場）

○…立ち上がり10分まで両チーム互角に戦った。しかしその後、土佐のパスを岩出がカットし、速攻が次々と決まり差が開いた。土佐もカットイン攻撃で健闘し点をとるが、岩出に速攻を許したのが勝敗を分けた。岩出は全員が良く走った。（中井、河戸）

大塚21（13―7、8―8）15信夫
（愛知）　（福島）

	〔信夫〕	得	〔大塚〕	得
GK	野池	0	藤田	0
GK	渡辺	0	竹内	0
FP	金子	5	小林	8
FP	管野	2	山本	2
FP	紫崎	1	飛田	2
FP	鈴木	3	大村	1
FP	富田	1	杉浦	0
FP	太田	2	長尾	8
FP	丹治	1	飛田	0
FP	鈴木	0	久江	0
FP	渡辺	0	小島	0
FP	内谷	0	小林	0
		15		21
PT		(4)		(1)

（審・中井　河戸）

○…前半の10分までは一進一退を続けたが、大塚が4点連続で得点し、その差を確実に守った。信夫の真面目な試合態度は目を引いたが、ディフェンス力、攻撃力とも多少大塚がまさっていた。（上野、中島）

多摩24（16―2、8―8）10吉浦
（東京）　（広島）

	〔吉浦〕	得	〔多摩〕	得
GK	森川	0	柳沢	0
GK	竹田	0	松沢	0
FP	岩田	2	松本	1
FP	大橋	2	布田	2
FP	石田	2	伊藤	3
FP	松原	3	加藤	3
FP	上平	1	水島	5
FP	細馬	0	萩原	7
FP	森	0	井上	0
FP	田中	0	五島	1
FP	石田	0	宮嶋	2
FP	橋本	0	峠	0
		10		24
PT		(1)		(1)

（審・上野　中島）

○…試合開始より、吉浦の攻撃が単発になったところを多摩が速攻を良く決め、前半で勝負を決めた。（島崎、小山）

▽2回戦

西笹川16（8―4、8―4）8新東淀

	〔新東淀〕	得	〔西笹川〕	得
GK	福島	0	大橋	0
GK	森浦	0	川島	0
FP	斎藤	0	栗田	3
FP	坂本	0	野田	4
FP	島平	4	酒匂	4
FP	伊藤	0	村田	2
FP	原	0	奥野	3
FP	児島	2	伊藤	0
FP	阪田	0	小林	0
FP	内田	1	江守	0
FP	浅野	1	石橋	0
FP	浜田	0	多湖	0
		8		16
PT		(1)		(0)

（審・中村　馬場）

○…西笹川が速いボール回しからよく走り勝利をつかんだ。新東淀は、ディフェンスに近いボール回しからポストを狙うが、西笹川のディフェンスを破れず苦しんだ。（中井、河戸）

衣川23（9―9、10―10、0―1、4―2）22呉羽

	〔呉羽〕	得	〔衣川〕	得
GK	松井	0	楠木	0
GK	川岸	0	木村	0
FP	舛谷	3	堺	2
FP	藤井	11	山沢	3
FP	北條	1	稲村	9
FP	小林	7	坂口	5
FP	川上	0	鶴谷	1
FP	斎藤	0	橋本	3
FP	塩井	0	石井	0
FP	朝倉	0	藤岡	0
FP	中西	0	吉川	0
FP	川上	0	成定	0
		22		23
PT		(1)		(3)

（審・河口　中井）

○…追いつ追われつのゲームで、後半19分衣川がリードしたが、残り10秒、呉羽・藤井のシュートで同点とし、延長戦にもつれこんだ。延長戦も後半残り15秒、衣川・山沢のペナルティスローで勝負が決った。（中村、馬場）

小禄26（11―9、15―6）15岩出

	〔岩出〕	得	〔小禄〕	得
GK	井上	0	我謝	0
GK	岩崎	0	長嶺	0
FP	中芝	5	瀬名波	2
FP	下津	3	長嶺	0
FP	宮城	1	赤嶺	0
FP	下津	0	上原	10
FP	小嶋	1	下地	3
FP	土井	3	上原	2
FP	和田	0	仲村	6
FP	二階堂	0	平良	3
FP	榎本	0	奥間	0
FP	南之園	2	當間	0
		15		26
PT		(0)		(1)

（審・大原　橋）

○…立ち上がりから多彩な攻めを見せる小禄に対して岩出はサイドを中心によく攻めたが、後半、スタート5分間で6連続失点を喫し、その後も速攻、サイドで必死に食い下がるが、ジリジリと引き離された。（浜田、岡辺）

多摩19（9―4、10―7）11大塚

	〔大塚〕	得	〔多摩〕	得
GK	藤田	0	柳沢	0
GK	竹内	0	松沢	0
FP	小林	1	松本	2
FP	山本	2	布田	4
FP	飛田	3	伊藤	1
FP	大村	2	加藤	5
FP	杉浦	2	若月	0
FP	長尾	1	水島	1
FP	飛田	0	萩原	6
FP	久江	0	井上	0
FP	小島	0	宮嶋	0
FP	小林	0	斎藤	0
		11		19
PT		(0)		(4)

（審・中井　河戸）

○…前半15分まで一進一退の攻防が続いていたが、多摩の速攻、追いかけ速攻が決まり出し、前半を9―4とした。後半も10分過ぎまで大塚の反撃が見られ3点差まで詰め寄るが、14分大塚・小林の退場をとられると次第に多摩のペースとなり、敗退した。（浜田、岡辺）

▽準決勝

西笹川25（13―8、12―6）14衣川

○…前半7分まで4―0と西笹川リード、その後も多彩な攻撃で確実に得点を重ね、前半13―8で終る。後半開始直後衣川得点するが、一方的な試合展開となり西笹

川が圧勝する。衣川は地元チームとして小柄ながらよく頑張った。（橘）

得	〔西笹川〕		〔衣川〕	得
0	大橋	GK	楠木	0
0	川島	GK	木村	0
1	栗田	FP	堺	1
4	野田	FP	山沢	2
3	酒匂	FP	稲村	6
7	村田	FP	坂口	2
7	奥野	FP	鶴谷	1
0	伊藤	FP	橋本	2
0	小林	FP	石井	0
1	江守	FP	吉川	0
2	石橋	FP	山本	0
0	多湖	FP	成定	0
25	(1)	PT	(1)	14

（審・浜田、岡辺）

多摩 18 （7－4、11－7） 11 小禄

○…前半から多彩な攻めを見せる多摩は、着実にリードを広げてゆき7－4で折り返した。後半に入り布田のロング等で着実に加点していく多摩に対し、小禄も5番の上原を中心にロング、サイドとシュートを打つが、差を詰めるには至らなかった。（岡辺）

得	〔多摩〕		〔小禄〕	得
0	柳沢	GK	我謝	0
0	松沢	GK	長嶺	0
3	松本	FP	瀬名波	1
6	布田	FP	長嶺	0
1	伊藤	FP	赤嶺	0
3	加藤	FP	上原	3
0	若月	FP	下地	2
2	水島	FP	上原	3
3	萩原	FP	仲村	2
0	井上	FP	平良	0
0	宮嶋	FP	奥間	0
0	江浜	FP	當間	0
18	(2)	PT	(1)	11

（審・大原、橘）

▽決勝

多摩 18 （6－5、12－6） 11 西笹川

○…両チームとも決勝戦を意識してか固くなり、本来の動きがあまり見られなく盛り上がりに欠け前半を終る。

後半、6分過ぎより多摩が着実に加点し点差を広げていった。一方、西笹川もミドルシュート、サイドシュート等で得点し、後半10分過ぎより相手キャプテンにマンツーマンで防衛するも、多摩の攻撃を食い止めることができなかった。（橘）

得	〔多摩〕		〔西笹川〕	得
0	柳沢	GK	大橋	0
0	松沢	GK	川島	0
2	松本	FP	栗田	1
7	布田	FP	野田	2
1	伊藤	FP	酒匂	4
5	加藤	FP	村田	2
0	若月	FP	奥野	0
1	水島	FP	伊藤	0
2	萩原	FP	小林	0
0	井上	FP	江守	0
0	五島	FP	石橋	2
0	宮嶋	FP	多湖	0
18	(0)	PT	(1)	11

（審・島崎、大原）

女子

▽1回戦

安慶田（沖縄） 22 （9－5、13－5） 10 泉（福島）

得	〔安慶田〕		〔泉〕	得
0	岳原	GK	根本	0
0	棚原	GK	江尻	0
0	安里	FP	大和田	1
3	宮国	FP	坪平	2
6	仲宗根	FP	小泉	3
0	古田	FP	吉田	0
0	具志堅	FP	吉田	0
11	比嘉	FP	生田目	2
1	照屋	FP	佐藤	0
1	喜屋武	FP	上遠野	1
0	新垣	FP	若松	0
0	宗良	FP	岡部	1
22	(2)	PT	(0)	10

（審・丸谷、奥田）

○…安慶田中の先取点で始まりその後も一度もリードを許さずに圧勝だった。安慶田中の比嘉のロ

昭和59年度全国中学校選抜競技大会 第13回全国中学校ハンドボール大会を振り返って

本年度より前記のタイトルと名前改め、全国9地区にブロック制をひいた第1回の大会とあって近畿2府4県による全種目（水泳を除く）を近畿ブロックで受け持つという型式となり、今までように各都道府県別とは違った型でスタートした。ハンドボール部も近畿の命を受け事務局を設置し、本年4月1日よりスタートを切った。昨年の北海道大会に負けないようスタッフ一同全力でぶつかった。

●……

中学生の最高の大会・第13回全国中学校大会は、8月21日兵庫県明石中央体育館にて午後3時30分その開会式の幕を開けた。全国中学校体育連盟副会長武内数男先生、日本ハンドボール協会常務理事村田弘先生をはじめ多数の来賓の方々のもとに、男女各16チーム計480名の堂々の入場行進で始まった。昨年度男子優勝の沖縄・安慶田中学を先頭に、各地区の激戦を勝ち抜いた真っ黒なたくましい精鋭の選手たちの入場の後、選手を代表して開催地代表、明石市市立衣川中学主将山沢康広君の宣誓によっ

男子で優勝した多摩中学

て3日間の大会の幕は切って落とされた。

昨年の北海道大会に続き2年連続出場は、男子の2チーム（下松中、岩出中）、女子8チーム（鶴城中、安慶田中、新東淀中、汐路中、岩崎中、寺井中、小杉中、泉中）で、連続出場の難しさがわかる。

●……さて、以下は大会の中で拾ったエピソードをお伝えします。

〈男子〉

—男子の〝ノッポ〟は、富山・呉羽中の藤井孝志君で185cm、〝チビッコ〟は、高知・土佐中の三宮将典君で138cm、その差37cmもあった。

—今年も地区によってレベルの差が目立った。東北、四国、北海道のレベルアップを願いたい。

—クリーン・ハンドボールと呼ばれ、今年は反則数が少なく、またラフプレーもほとんどなく、気持ちの良い大会であったと思う。（狩野審判長談）

—今大会を通してベスト7をあげるとすれば、男子では東京・多摩中GK柳沢圭司、FP加藤睦、布田淳、三重・西笹川中、村田毅司、奥野誠、大阪・新東淀中、中島平裕紀、沖縄・小禄中、上原尚君となろうが、1回戦で惜しくも敗れた東京・中野中の伊藤直道、愛知・大塚中の長尾紀広、福岡・城南中のGK緒方幹之君等は将来性があり、ますます今後の精進を期待したい。

〈女子〉

—何と言っても沖縄・安慶田中の比嘉晴美さんだろう。1回戦の対泉中では22点中11点、2回戦の対小杉中では19点中16点、準決勝の対汐路中では12点中6点と、すべての試合の半分以上を決める活躍ぶりを見せた。その左腕からくり出すシュートは、相手ゴールキーパーの手かすめることなく決まり、またフットワークに至っては、相手を2人、3人と軽々と抜き去る動作は、どう見ても中学生とは思えない鋭いものであった。このプレーを観戦に来られた鈴木義雄（ジャスコ）、谷口俊郎（大崎電気）、緒方嗣雄（大和銀行）の諸氏は、その動きの早さに注目されていた。

—長身は東京・桜木中の執印麻樹さん、チビッコは香川県・塩江中の藤沢有紀さんでした。

—小学校時代まではスポーツを禁止されていたという神奈川県・岩崎中の曽根美知子さんは、元気な姿でコートいっぱいに頑張っていました。

—ベスト7を選ぶとすれば、神奈川県・岩崎中の児玉薫、加藤陽子、磯野美穂子、愛知県・汐路中のGK勝俣尚子、陰治恵子、那須恵子、沖縄県・安慶田中の比嘉晴美さん。

●……最後に

8月24日より男女決勝に続き閉会式があり、竹内数男、伊藤和男（日本ハンドボール協会常務理事）両氏より、賞状、優勝旗、優勝カップ、トロフィー等の授与、無事4日間の日程を終りました。

結局、男女とも関東地区が優勝、準優勝も東海地区となりました。

ング、仲宗根のポストプレーが光っていた。（大原）

小杉 12（5－7, 7－3）10 多賀
（富山）（滋賀）

〔多賀〕		得
GK	中江	0
GK	丹城	0
FP	谷川	3
FP	森	1
FP	大矢	3
FP	森野	1
FP	野村	2
FP	大矢	0
FP	北川	0
FP	夏原	0
FP	岸辺	0
FP	北川	0
PT	(2)	10

（審・大　橋　原）

〔小杉〕		得
GK	坂本	0
GK	町田	0
FP	秋本	0
FP	久野	2
FP	石戸	4
FP	近藤	3
FP	近藤	0
FP	長谷	0
FP	安田	0
FP	島木	3
FP	島	0
FP	竹腰	0
PT	(1)	12

○…前半1点を争う一進一退のゲーム展開となり7－5で前半を終了した。後半開始すぐ小杉が2点連取し同点となる。その後も速攻、ロングなどで10分過ぎ小杉が逆に2点のリードを奪った。その後2点小杉が追加し2点差のまま終盤へ。最終的には、後半10分まで点数の入れられなかった多賀の敗戦となった。（瀧）

汐路 27（17－1, 10－1）2 青葉
（愛知）（北海道）

〔青葉〕		得
GK	酒井	0
GK	藤井	0
FP	澤田	2
FP	菊地	0
FP	山田	0
FP	田川	0
FP	豊吉	0
FP	川上	0
FP	森川	0
FP	福田	0
FP	和田	0
FP	守屋	0
PT	(0)	2

（審・崎　瀧　野）

〔汐路〕		得
GK	勝俣	0
GK	河合	0
FP	那須	1
FP	陰	4
FP	中嶋	4
FP	青地	0
FP	松岡	8
FP	板倉	7
FP	松下	0
FP	大橋	2
FP	山口	1
FP	平松	0
PT	(4)	27

○…立ち上がりから地力に勝る汐路の一方的なゲームとなったが汐路もノーマークシュートのミスが目立った。青葉としては、この相手ミスにつけこみたいところだったのだが……。（岡部）

桜　木（東京）16（8—7、8—3）10 下　松（山口）

〔下松〕		得
GK	金清	0
	世良	0
FP	吉原	0
	香井	1
	小林	2
	小林	3
	川崎	2
	福成寺	2
	森野	0
	佐伯	0
	木本	0
	弘中	0
PT	(1)	10

〔桜木〕		得
GK	西村	0
	宇井	0
FP	竹吉	4
	湯野川	7
	関	1
	日野屋	0
	大家	1
	楠田	0
	執印	2
	加藤	1
	村田	0
	上口	0
PT	(3)	16

（審・浜田、岡部）

○…1点を争う好ゲームとなったが、後半に入って下松中のシュートミスが多くなり、リズムを崩し10分過ぎに4点差となった。桜木中は大事なところで湯野川のサイドシュートがよく決まり諸戦をものにした。（奥田）

岩　崎（神奈川）25（11—5、14—4）9 鶴　城（熊本）

〔鶴城〕		得
GK	平田	0
	若松	0
FP	田代	1
	山下	2
	白石	1
	井上	0
	芦田	0
	太田	0
	上田	2
	田中	3
	宮下	0
PT	(0)	9

〔岩崎〕		得
GK	佐藤	0
	矢沢	0
FP	加古川	1
	加藤	2
	土谷	3
	柳原	3
	児玉	10
	磯野	5
	鈴木	1
	上島	0
	小西	0
	岩下	0
PT	(3)	25

（審・奥田、丸谷）

○…試合開始4分頃より岩崎中加藤、磯野のカットインでリードをし、スピードに勝る岩崎中は確実に得点を重ね鶴城中を圧倒した。（大原）

新東淀（大阪）14（9—3、5—7）10 操　南（岡山）

〔操南〕		得
GK	岡野	0
	山本	0
FP	豊島	0
	太田	0
	高田	0
	岩角	3
	大道	5
	高橋	0
	岩城	0
	穐山	0
	橋本	2
	豆崎	0
PT	(1)	10

〔新東淀〕		得
GK	吉田	0
FP	石川	0
	横山	0
	小沼	3
	河村	0
	大迫	0
	田平	2
	城戸	0
	西村	2
	岩下	6
	高山	1
PT	(4)	14

（審・大原、橋）

○…操南はロングシュートで新東淀はカットインを主体の攻撃で得点しようとするが、立ち上がり両チームともミスがみられ得点できなかったが、速攻に勝る新東淀が連続得点し前半6点リードした。後半は操南の速攻が決まりだし13分には3点差まで追い上げたがそれまで、前半の6点差が悔まれる。（奥田）

魚　住（兵庫）19（10—6、9—6）12 塩　江（香川）

○…前半からみんなでよく走る魚住は、米分のロングカットインを中心によく塩江ディフェンスを突破した。

後半5分過ぎから疲れのみえる塩江は、魚住・米分、内田のロング、ミドルを最後までとめられず、攻めもしだいに単調になりついに力つきた。

〔塩江〕		得
GK	藤沢	0
	黒川	0
FP	尾川	1
	藤沢	0
	植松	0
	藤沢	9
	新居	0
	辻	0
	松川	0
	佐々木	0
	土居	2
	川田	0
PT	(5)	12

〔魚住〕		得
GK	池田	0
	高松	0
FP	玉田	3
	鎌谷	0
	米分	9
	内田	7
	茨木	0
	竹内	0
	椿本	0
	井上	0
PT	(3)	19

（審・瀧、崎野）

寺　井（石川）11（9—3、2—5）8 朝　明（三重）

○…攻守に勝る寺井中が森を中心に着々と加点し9—3で前半を終了した。

後半、朝明中は中西と立原の速攻により反撃したが前半の6点差が大きすぎ今一歩及ばなかった。（崎野）

〔朝明〕		得
GK	片岡	0
	速水	0
FP	中西	4
	山本	0
	森	1
	末吉	0
	伊藤	0
	西脇	0
	花岡	0
	稲垣	0
	佐藤	2
	立原	1
PT	(2)	8

〔寺井〕		得
GK	東方	0
	室	0
FP	西井	0
	中川	0
	宮本	0
	森	7
	片岡	0
	山崎	0
	宮川	3
	石村	1
	藤田	0
PT	(4)	11

（審・浜田、岡辺）

▽2回戦

安慶田 19（8—6、11—10）16 小　杉

〔小杉〕		得
GK	坂本	0
	田石	0
FP	秋本	0
	久野	1
	石戸	6
	近藤	3
	近藤	1
	長谷	0
	安田	0
	島木	5
	島	0
	竹腰	0
PT	(2)	16

〔安慶田〕		得
GK	岳原	0
	棚原	0
FP	安里	0
	宮国	1
	仲宗里	0
	古田	2
	具志堅	0
	比嘉	16
	照屋	0
	喜屋武	0
	新垣	0
	宇良	0
PT	(1)	19

（審・瀧、崎野）

○…安慶田中・比嘉選手の活躍により前半2点差で終る。後半に入り、小杉中のパス、キャッチミスが目立ち安慶田中が逃げ切った。残り5分小杉中の追い上げはすばらしいもので好感の持てる両チームの試合であった。（島崎）

汐　路 19（8—5、11—6）11 桜　木

○…実力の接近した両チームで好ゲームを展開した。汐路中のスキを逃がさない攻撃はすばらしく、ディフェンスの良い桜木中も少しずつ点差をあけられた。桜木中の執印に頼らざるを得ないところに

総合力で汐路中がまさっていた。（中島）

女子の優勝は岩崎中が果した

得	桜木		汐路	得
0	西村	GK	勝俣	0
0	宇井	GK	河合	0
6	竹吉	FP	那須	5
1	湯野川	FP	陰	3
0	関	FP	中島	1
0	日野屋	FP	青地	4
1	大家	FP	松岡	1
0	楠田	FP	板倉	5
2	執印	FP	松下	0
1	加藤	FP	大橋	0
0	村田	FP	山口	0
0	上口	FP	平松	0
11	(3)	PT	(2)	19

（審・小島 山崎）

岩崎16（6—4 5—7 3—2 2—1）14新東淀

得	新東淀		岩崎	得
0	吉田	GK	佐藤	0
0	田中	GK	矢沢	0
0	石川	FP	加古川	3
0	横山	FP	加藤	2
2	小沼	FP	土谷	0
0	河村	FP	柳原	1
0	大迫	FP	児玉	5
2	田平	FP	磯野	5
1	城戸	FP	鈴木	0
2	西村	FP	大石	0
6	岩下	FP	沢田	0
1	高山	FP	曽根	0
14	(2)	PT	(1)	16

（審・不明）

○…両チームスピードにのった攻撃を展開し互角の戦いではあったが、ディフェンスにやや勝る岩崎中がよく守り2点差で前半を終了した。しかし、後半に入ると新東淀・岩下のミドルシュートなどの活躍で着々と加点した。それに対し岩崎は、攻撃のスピードがやや落ち延長戦へともつれこんだ。延長戦は、両チームとも疲れが見えたが確実にシュートを決めた岩崎が競り勝った。（瀧）

寺井22（11—3 11—5）8魚住

得	魚住		寺井	得
0	池田	GK	東方	0
0	高橋	GK	室	0
0	玉田	FP	西井	2
0	鎌谷	FP	中川	1
3	米分	FP	宮本	10
2	内田	FP	森	5
0	茨木	FP	片岡	0
1	竹内	FP	山崎	1
0	椿本	FP	宮川	0
2	井下	FP	石村	2
		FP	藤田	1
		FP	東	
8	(0)	PT	(2)	22

（審・瀧 崎野）

○…力に差があり、大差で勝負が決定した。（上野）

▽準決勝

汐路16（8—4 8—8）12安慶田

得	安慶田		汐路	得
0	岳原	GK	勝俣	0
0	棚原	GK	河合	0
0	安里	FP	那須	2
3	宮国	FP	陰	4
2	仲宗根	FP	中島	2
1	古田	FP	青地	2
0	具志堅	FP	松岡	2
6	比嘉	FP	板倉	4
0	照屋	FP	松下	0
0	喜屋武	FP	大橋	0
0	新垣	FP	山口	0
0	宇良	FP	平松	0
12	(2)	PT	(1)	16

（審・小島 山崎）

○…前半の中頃までは両チームとも持ち味を発揮し互角の戦いであったが、安慶田のエース比嘉のロングシュートやペナルティスローが汐路GK勝俣の好守にはばまれた。それを機に波に乗った汐路は着々と加点し、4点差で前半を終了した。後半も汐路のペースで終始した。最後の安慶田の追い上げも前半の4点差を縮めるにはいたらなかった。（崎野）

岩崎21（12—3 9—7）10寺井

得	寺井		岩崎	得
0	東方	GK	佐藤	0
0	室	GK	矢沢	0
1	西井	FP	加古川	2
2	中川	FP	加藤	3
3	宮本	FP	土谷	5
3	森	FP	柳原	4
0	片岡	FP	児玉	3
0	山崎	FP	磯野	4
1	宮川	FP	鈴木	0
0	石村	FP	上島	0
0	藤田	FP	小西	0
0	東	FP	岩下	0
10	(1)	PT	(0)	21

（審・不明）

○…両チーム持前の力を発揮したが、前半中盤より岩崎中が速攻でリズムをつかむ。

後半に入り、岩崎中の速攻とリズムは変らず寺井中は走り負けをした。（島崎）

▽決勝

岩崎18（11—3 7—6）9汐路

得	汐路		岩崎	得
0	勝俣	GK	佐藤	0
0	河合	GK	矢沢	0
3	那須	FP	加古川	2
3	陰	FP	加藤	3
1	中嶋	FP	土谷	3
1	青地	FP	柳原	0
1	松岡	FP	児玉	7
0	板倉	FP	磯野	2
0	松下	FP	鈴木	1
0	大橋	FP	大石	0
0	山口	FP	沢田	0
0	平松	FP	曽根	0
9	(3)	PT	(3)	18

（審・上野 中島）

○…試合開始直後、汐路中の体がほぐれない間に岩崎中2点を先行。その後も中央のカットイン、また、サイド攻撃等で着実に加点する。一方、汐路中も中央への攻撃をしかけるが岩崎中の硬い守りに得点ができず前半を終る。後半は互角の戦いだったが、前半の失点が大きく勝負は決していた。（橘）

感激手記

全国中学校選手権大会を制して

〝走れ岩崎〟を子供たちがやり遂げた

横浜市立岩崎中学校・ハンドボール顧問　山口和男

ハンドボールは未知だった

全国大会で優勝できたことはとても嬉しいことではあるが、優勝した監督として原稿を依頼され、実は本当に困ったのである。

なぜならば、私は高校時代サッカー選手としての経験はあるが、ハンドボールにはまるで縁がなく、私にとってハンドボールはまだまだ分らないことだらけであり、まさか優勝するとは思ってもみない事であったからだ。

岩崎中学のハンドボール部は赴任3年目に私が作り、子供と共に一から歩み、学び現在に至っている。

私は以前サッカー部の顧問を2年続けたが、主になっている顧問の先生の指導法（技術面ではない）が自分の意図する事と違うことに気がつき、自分で別の種目を通して、子供達に指導しょうと考えた。

私が指導しているのは『勝つことではなく自分の力を出し切ること』の重要さである。

中学生は実にすばらしい能力を秘めている。しかし今の子供達は、力の限り努力することが少ないように思う。日々の練習では力の限り努力させ、試合では自分の持つすべての力を出させたい。

しかし子供達に、試合の中で自分達の本当の力を出させることは難しい。

私は試合に勝っても怒ることが多い。試合は勝つことが目的ではなく、今までの練習成果を出す場と考えるからである。子供達の能力と状態を考え合わせ試合前に指示を出すが、年間を通して力を出し切れる試合は非常に少ない。

全国大会準々決勝での新東淀中との試合は、子供達の力が充分に出ない試合であった。まずノーマークのシュートを次々と外し、点が入らず次第に子供達は焦り出し、子供同士の意志の疎通が無くなってしまった。

試合後約1時間かけて子供達の心の状態と焦りの原因を探った。

一人の選手は勝ちたいという焦りのため、もう一人は2時間も慣れないパンの朝食による空腹で、自分自身を見失ない考えたプレーが出来なくなった。

子供達は精神状態が安定しないと、即座に力を出し切れなくなる。心と体のコンディション作りの重要さを実感した試合であった。

汐路中との決勝戦において子供達は「あの綺麗な体育館で試合ができる」という喜びだけで、勝敗を気にせず全員がリラックスして出場出来たことが、力を出し切って最高の試合になったと考える。

全員がよく走り、細かくパスを繋ぎシュートを狙う岩崎のハンドボールが出来た。

岩崎中のハンドボール部がここまで成長したのは、土谷稔明氏と沢井隆夫氏の大きな影の力があったからである。

中学へ入学した子供達は部活動を決定することに夢中になるが、ハンドボールを知る子はまずいない。

創部当時1年生の入部希望者は皆無であった。

二人の良き理解者

私が幸せであったのは、地域のミニバスケットで小学生を指導している土谷氏が「岩中のハンドは熱心に活動してるよ」と子供達に声を掛けてくれた事である。現在厳しい部活と聞いて敢えて入部する子供がふえている。

沢井氏（現成美学園コーチ・神奈川県ハンドボール協会常務理事）は、私にハンドボールを教えてくれた人である。

私の技術指導は走ることと、高い所からシュートをすることのみであった。

しかしハンドボールとはいかにノーマークを作るかが大切であり、パス・シュート等の専門書に載っていない技術を、私も子供も沢井氏に教わった。

この二人のよき理解者に出会えた事によって、私のハンドボールが出来上がってきたように思われる。

今年全国優勝が出来たのは、3年連続出場という経験を糧としてチーム全員が自分の力を出し切れたこと。私自身がハンドボールを理解できるようになってきたこと、そして私の考える。〝走れ岩崎〟を子供達がやり遂げてくれたことであろう。

各選手はこう反省する

　ロサンゼルス・オリンピックに参加した全日本男子選手の方々にお願いして、今大会で学んだこと、今後の対策について書いて戴きました。ここに、9月10日までに日本協会に到着した分を掲載致します。

（編集委員会）

山本伸二　湧永製薬

　自分の技術の劣っていた点
①シュートチャンスをうまく作れなかった。
②アシスト・プレーが出来なかった。
③カットインスピードが遅く、一人をかわしても、次のディフェンサーに守られる場面が多くあったように思う。
　その他、細かい面でまずい点もあったが、視野の広さと、冷静な判断力に欠けていたように思う。
　今後における技術習得
・オフェンス面
①フットワークのスピードアップ
②ボールを持っていない者に対するマークの仕方
・オフェンス面
①パステクニックの向上
②ボールを持っているプレーヤーに対しての合わせの動き。
③オールラウンドなプレー及びシュートテクニックの向上。
　体格差はどうしようもないが、パワーアップをはかり、また、日本の場合、全てにおいてスピードアップを測らなければ、ヨーロッパ勢の高くて厚い壁は打ち破れない。
　そして、ボールに対する執着心。ルーズボール、リバウンドボール、ミスをした後の処理等、細かいプレー、小さいプレーを大事にする。
　全試合を通じて感ずる事は、いかに1試合を通して十分に力を発揮でき、また、持続させられるかという点（体力及び集中力）。
　後半20分を経過してからの攻防が、勝敗を大きく左右するので、今後も、戦力、戦術面において、考慮していかなければならない。

ピックで学んだこと

大きな教訓からソウルを目ざせ

蒲生晴明　大同特殊鋼

1ディフェンスについて
　日本では、0―6ディフェンスが主流であるが、今大会はヨーロッパ各国とも1―2―3ディフェンス（図1）を多用し、このディフェンスからトップが自由に動く変則1―5（図2）にゲーム中盤から変化させていた。この変化により、横パスがフリーに通せなくなり、オフェンスの範囲が限定され、無理なプレーや反則をとられてしまう結果になった。
　このように、各国ともワンパターンのディフェンスだけでなく、2〜3パターンのディフェンスのシステムを持っており、対戦相手およびゲームの流れにより変化させ、相手のパターンで攻撃させまいとしていた。また、アルジェリアは、ハーフコート・プレス・ディフェンスをゲーム中にひくことにより、ミスを誘ったり、パスカットに出たり、従来にない型のディフェンス・シフトを実践していた。このようなディフェンスをするうえで、各国ともそのシステムを十分に理解し、全員がどのポジションでもこなすほどの技術があった。それに、横のフットワークの早さがあり、空いたスペースを必ずフォローアップし、ボール中心にディフェンスを行なっていた。
　今回の日本は、1―2―3、5―1ディフェンスを多用し、ある程度の成果はあったが、これから日本が勝つためには、失点を20点までにおさえることが条件であり、日本独自のディフェンス・システ

ムを開発していく必要を感じた。
そして、以前に比べれば体格的には大型になっているが、ヨーロッパ各国はさらに大型になっており、2ｍ、100㎏級の選手は、少なくとも2～3人ほど必ずいる。また、大型だけでなく、特に上半身の力が強いことも、今回感じたところである。日本も、190㎝以上の人材発掘と同時に、選手のパワーアップも技術と並行して行なっていく必要がある。

2オフェンスについて

ヨーロッパ各国のオフェンスを区分すると、ロング主体のルーマニア型とポスト、サイド主体のユーゴ型のふたつに分けられる。ルーマニアについては、左右の強力なシューターと1人のリードオフマンにより、ブロックを利用してロングやワンフェイントからミドルを多用していた。また、ユーゴについては、ワンフェイント、ワンクロスなどからポスト、サイドへボールを集め、確率の高いオフェンスを行なっていた。どちらも攻撃には時間を十分にかけており、より良い状態でシュートが打てるようにプレーをしているので、上位の対戦を見ると16～20点前後で勝敗が決まっている。また、最終フィニッシュを打つシューターは、テクニックもさることながら、スピードがあり、キーパーにコースを読まれていてもパワーでゴールインしてしまう例が非常に多かった。

日本としては、これからパワーをつけることを優先し、シュートテクニックを上回るものにしていくことが大切である。今回の最大の敗因は、得点がとれなかったことであり、特にシュート確率が低かったことでもわかる。また、攻撃パターンも、ディフェンス体型をいろいろと考えて、その変化にいつでも対応でき、1時間を通じてコンスタントに力を発揮出来るようにしなければならない。

3精神的な面について

さまざまなプレッシャーがあるが、これらのプレッシャーをはね返すだけのファイティングスピリットと相手を打ち破るパワーが不足していた。もっとアニマル的なプレーをトレーニング中から相互に行なっていかないと、後半の大切な局面でこのファイティングスピリットとパワーは出現しない。精神的な若返りをする必要があると思う。

ロサンゼルス・オリン

最高の場と最高の相手から得た

大畑孝広
本田技研鈴鹿

まず日本が一番苦戦したのは、点が取れない事であった。

大会前より、攻撃に粘りを持たせる意味でDFと接触してからのポストへのパスとかサイドの切り込みなど、スローペースよりアクセントをつけて得点するよう心がけて来た。しかし、この攻撃が裏目に出た事も少しあるように思える。

それは、攻撃の関連性といった面で、ボールを持った選手のみ動き、周囲の選手は足が止まり、攻撃に幅がなくなって、最後は高さの前にシュートが出来なくなり、また始めからといったように、それらの攻撃に自分たちであせってしまい、単発シュートを打ったり個人技だけでシュートにいったので、接戦をしていても最後に詰ってしまい、点が取れなくなってしまった。そして、相手に連取点されるとあわてて攻めるため、ミスや無理な突っ込みでチャージを取られた。

日本の得意とする速攻が出なかったのも点づまりの原因であると思う。最後の3試合（ルーマニア、アルジェリア、アメリカ）は、積極的に前へボールをつないだため、気持ちプラス足の運びが前へ前へとつながり、欲求不満のたまらない展開となった。しかし、緊張の糸の切れる所があり、連続得点を許してしまう。これが最大の敗因だと思う。

次にディフェンスだが、相手は大型という事は以前から判っていたが、やはりその前に対策を打つ手が少し甘かった。ポスト・プレーヤーのマークの仕方に難しさがあり、ポストからのシュートやPTが多かった。しかし、1―2―3のディフェンスはかなり有効で、2番目の選手の動きによっては、これからも大型チームに対してかなり積極性のあるディフェンスになると思う。それにつられて、GKも後手のキーピングから詰める事が出来るキーピングへと変わると思います。

とにかく、ヨーロッパばかり見ていると、アメリカ、アジア、アフリカも相当力をつけているため足元をすくわれるおそれがあるから、日本独特のプレーを忘れず、スピード、シュートの確率の良さを向上させる事が必要となると思う。

佐々木信男
本田技研鈴鹿

○オフェンスについて

1年間いろいろな攻撃パターン

を練習して来たが、いざ試合になると、足が止まってプレーしていた場面が多く見受けられ、最後には個人技で得点する事が多かった。また、ポストへ落とすプレーも使い過ぎの傾向があり、それが足を止めてのプレーを多くしたのではないかと思う。しかし、フリースローからの得点があったので、これからは2人のコンビとか3人のコンビをもっと研究すれば得点があがると思う。

やはり、日本チームはスピードでいかなければならないので、速攻のつなぎをもっと練習すれば良いと思う。

○ディフェンスについて

大会前からの情報で相手が大きいのはわかっていたので、ある程度守っていたと思う。しかし、ポストへパスを落とされるとPTか警告・退場となるので、これからはポストへのディフェンスをもっと研究しないといけない。しかし、1―2―3のディフェンス、5―1のディフェンスは外人に通用すると確信したので、このディフェンス・パターンをもっと確実なものにしていけば良いと思う。

※　※　※

最後に、日本チームは外人に対する時は、スピードで対抗しなければ活路を見出さないと痛切に感じたし、筋力アップを計っていかなければならないと思う。

志賀良弘
湧永製薬

今大会を通じて自分自身の技術的に劣っている点は、

○ディフェンス力が劣っていたように思う。もっと1対1を守り、相手オフェンスの動きを理解して先読みする力、ディフェンスでの足の使い方などをもっと考える。

○シュート力。もっと確率の良いシュートを打つこと。

○ボールをもらってからシュートに行く動きが遅い。もう少し早くする。

高村誠一
大同特殊鋼

1オフェンスについて

①シュート

。ロングシュートの長身を利しての高い打点とパワーを生かしたシュートスピードが違う。外人は10～11mから思い切ってジャンプ、ステップシュートを打ち込んでくるので、ものすごいスピード（120km／r前後）である。日本人は、ディフェンスの逆をつこうとか、タイミングをはずす等のテクニックを使うので、どうしても最後のシュートにスピードがなく、シュートの確率が悪くなっている。

。サイドシュートについても、それぞれのサイドプレーヤーが素晴しいシュートテクニック（スピード、ループ、逆スピン等）を持っており、加えて、フェイント力、突進力も素晴しく、全得点の3割近くはサイドからのものである。

②ポストプレー

。ポストプレーが非常にパワフルである。日本のディフェンスは、ポストにボールが入れられると、大半がペナルティーか退場をとられている。しかし、日本のポストプレーは、ボールが入ってもせいぜいフリースロー止まりである。これは、やはり上半身のパワー、身長差の違いによるものであろう。日本のディフェンスがいくらしがみついても、外人選手にはそれをふりほどくだけのパワーがある。

③速攻

。以前は日本の最大の武器であった速攻についても、そのスピードでは日本との差はもうほとんどない。単発シュートを打とうものなら、逆に速攻で得点されるケースが出る。

2ディフェンスについて

①個人の守備能力

。外人は上半身のパワーがものすごく強く、日本人がフェイントで半身ずらしても、片手で押さえられてしまう事がよくある。フットワークが速い。フォロー・ディフェンスもうまい。当然の事ながら、身長が高いのでディフェンスの高い壁が作れる。

②セットディフェンス

。全員が速い縦横のフットワークでボールに対するディフェンスを敷いている。このためボールの逆側のサイドプレーヤーを攻撃からシャットアウトして5人のオフェンスを6人のディフェンスで守る布陣を敷くので、遅いパスワークだと攻撃の糸口がほとんどつかめない。加えて、真中4人が手を上げてくるとすごく高い壁が出来、その威圧感はものすごい。

これらの外国人チームとの差を認識しながら、今後自分としてトレーニングする上での注意点を述べたい。

1オフェンスについて

。まずシュートをスピードで打ち込むために上半身のパワーアップと腕力の強化。1対1を抜くだけのフェイント力のアップ。外人の高い壁を越せるだけのジャンプ力をつける。

2ディフェンスについて

。あの大きな外人の体を片手で止められるような腕力をつける。ぶつかり合いにも負けないように上半身のパワーアップ、外人の大きな体が走り込んでくる前につぶすための速いフットワークを身につける。また、相手の攻撃を先読み出来るようにする。

第11回全国教員養成大学研修会報告

男女225名が参加

実り多い研修会

将来教員を目ざす大学生を対象として開催されているこの研修会は、7月24日～28日まで筑波大学で開催された。

参加者は年々増加の傾向にあり、本年度は受け入れの都合上、申し込みを断った大学もあった。

参加者数は、北は北海道から南は沖縄まで全国にわたり225名となった。

1．役員、講師、補助員

大西武三、本田娟一、村松誠、山崎武、李寿昶、高松薫、平岡秀雄、水上一、岡本研二、河村英明、河村レイ子、土井秀和、佐藤靖、笹倉清則、清水宣雄、宮元章次、筑波大学男女ハンドボール部。

2．参加チーム

〈男子〉都留文科大17名、信州大13名、神戸大10名、山口大9名、熊本大2名、駒沢大2名、山形大9名、金沢大14名、和歌山大1名、群馬大1名、福島大2名、国際武道大8名、計88名。

〈女子〉琉球大9名、北海道教育大旭川分校7名、信州大5名、京都女子大13名、滋賀大11名、横浜国立大7名、文教大15名、千葉大11名、和歌山大8名、奈良女子大9名、都留文科大6名、香川大9名、宮城教育大3名、山形大9名、茨城大7名、駒沢大6名、国際武道大2名、計137名、男女合計225名。

3．研修会賞

午前、午後の練習の最後に、技術、戦術のまとめとしてミニゲームが行なわれるが、ミニゲームの成績のよいチームに研修会賞としてトロフィーが贈られた。男子は都留文科大学A、女子は奈良女子大学であった。特に、奈良女子大学は、3年前の参加では1勝も出来なかったチームで、本年度全勝したことは、研修会の成果を充分に発揮したものと、講師一同喜んでいる。

4．講習内容

午前は主に基礎的な技術の講習を行なうが、グループ編成は経験別にしており、技量に応じた形で練習出来るようになっている。午後は主にチームプレーの講習を行なっている。同一大学でチームを組み、人数の少ないチームは連合チームを作って練習を行なっている。

講習内容は、グループやチームによって異なっているが、だいたい次のようなものです。

夜は、1日目はオリエンテーション、2日目、3日目は、両日とも①トレーニング、②初歩的段階における全般的Q&A、③中級的段階における全般的Q&A、④5年以上経験者に対する全般的Q&A、⑤ルールと審判、の中から選択制とし、希望グループに分けて講習を行なった。また、2日目にはチームのキャプテン、マネージャー必修でチーム運営に関する講習、3日目にはGK必修でGKの技術と練習について講習を行なった。4日目は、それぞれのチームでミーティングをするなどチームの独自性にまかせている。

研修日誌

◇7月25日　午前、天候・晴、場所・7コート、チーム名・Bチーム、講師名・宮元・岡本先生、記入者・中條ルミ子

〈教育内容〉速攻中心の練習・4人のクロスの速攻・ディフェンスを入れての4人速攻・攻防戦・リターンパスを使っての3人の攻め・視野を広げる（2チャンネルのパス）。片一方だけでなく周囲を見れる余裕を持つ。ディフェンスはボールに対してつく。カットをねらいにいく。正面にかまえるより一方をつめてどちらにも動けるようにする・情況判断を身につける。ドリブルを入れるタイミングが大切・ボールをもらう前、投げたあと前（ゴール）を必ず見る。

〈感想〉いつもの速攻練習は、1人、2人、3人のクロスだけだったが、4人にして攻防戦にするとゲームでの実践にも役立てるだろうし、速攻の際のディフェンスもなかなかよくわかった。これらの速攻練習をこれからとり入れていこうと思う。

◇7月25日　午後、天候・晴時々くもり、場所・筑波大学内多目的グラウンド、チーム名・和歌山大学、講師名・水上先生、記入者・北野真紀子

〈教育内容〉。各自ウォーミングアップ。ボールをもってシュート。セットディフェンスでのディフェンスの動きの練習（フットワーク）・必ずボールのある方を半分ケアしながら自分のマークの人をケアする・つめてからの横の動きチェンジは午前中と同様・さがるのはボールのある方へ。3人でのディフェンス練習。6対6のオフェンスとディフェンス（チームごとで）。ミニゲーム（対千葉大）

〈感想〉まずミニゲームでは攻めの方はまだまだだれがどこでシュートするかということがわかっていない。ディフェンスを見ていない。ポストを使いきれていない。ディフェンスの方では、ディフェンスのスタンスが

きちんと出来ていない。ボールへのチェックがあまいと思う。明日は今日の反省をいかし、もう少しいい試合がしたい。

◇7月26日　午前、天候・晴、場所・筑波大学多目的グラウンド、チーム名・都留文科大学、講師名・土井秀和先生、記入者・西岡雅樹

〈教育内容〉ランニング、体操、ウォーミングアップ。スキップでドリブル（前と後）。ボールを足に通しながら走る。ジャンプして最高点でボールをとる。背中とお腹で交互にボールをとる。フェイントのステップ。スパン左右。パス、つめのフットワーク、DF練習、1対1の守り、2対2の守り（受け取るほうがチェンジの声を出す）。ジャンプシュートのDF。たての2対2（フローター&ポスト）。ブロックプレー。パス&ラン（リターン）。2対2（フリー）。4対4（サイド、フローター）＋1対1（ポスト）。ペナルティースローの練習。整理運動。

〈感想〉今日も1対1を中心とした練習でとても参考になりました。ハンドボールの基本はまず1対1ですからしっかりマスターできるよう頑張りたいと思います。4対4＋1対1の練習は、都留に帰ってからも使ってみたいと思います。最後にペナルティーの練習をしたのですが、なぜか午前中は調子がよく2本とも決って気持ちよかったです。

◇7月26日　午後、天候・晴、場所・筑波大学多目的グラウンド、チーム名・群馬大学、講師名・土井秀和、記入者・石渡進。

〈教育内容〉チームプレー、ゲーム（Bグループ）。ランニング・体操・ストレッチング。対人パス。3対3の速攻　センターラインから両チーム3人ずつが走って行ってボールを取り、ボールを取った方がオフェンス、取らなかった方がディフェンスとなって速攻をする。どちらか2本決るまで。。6対6　ディフェンス対オフェンス　金沢大学B対都留文科大B信州大学B。ゲーム　金沢大学B対連合大学、スコアー10対4負け。講義。トレーニング。

〈感想〉①速攻ではパスがうまく通らなかったり、むだな動きが多くて反省する。②6対6はまあまあだったが、ゲームでは動きが全体的に小さくなってしまってディフェンスにつかまってしまった。ディフェンスでは、各自のチェックが甘かった。③ゲームでもっと幅のある良い動きをしたい。④講義（トレーニング）。トレーニングは量ではなくて質であることを確認した。もっと頭を使うべきだと思った。

◇7月27日　午前、天候・晴、場所・体育専門学群、チーム名・琉球大学、講師名・清水・岡本・李先生、記入者・仙波清美。

〈教育内容〉①クリーンハンドボールとレフェリー…清水先生。ハンドボールは技と技の競技である。正しいディフェンス＝フットワークを使う。コンビネーションプレーをする。。レフェリーについて反則があった時、すぐに笛を吹けるようにする。位置取り（ボールがよく見えるように）表現力（動作を大きく）②ハンドボーラーとレフェリー…岡本先生。10項目のハンドボーラーの動作について。③ハンドボーラーの情熱的な姿勢について…李先生。うまいへたよりもまずハンドボールに対する情熱と姿勢が大切である。④VTR。

〈感想〉。ハンドボールという球技は、本当に身体接触が多いと思います。だからハンドボーラーがクリーンハンドボールを目ざしてフットワークをフルに使用してディフェンスを行なうように努力したいものです。。プレーヤーがクリーンハンドボールをしていれば、レフェリーもきちんと判定してくれると思います。したがって、プレイヤーはレフェリーを味方にしていくように常に正しいプレーをし、ラフプレーをした時はすぐに認めるように行動したいものです。

◇7月27日　午後、天候・晴、場所・筑波大ハンドコート、チーム名・山口大、講師名・山崎先生、記入者・上野。

〈教育内容〉。フローターとポストの合わせプレイ。基本的な動き3つ。ミニゲーム。山口大14－3信州大B13－4信州大A。

〈感想〉。山崎先生に習ったポストプレーをチームでしっかりものにしたい。空いた所を常にみつけられるように練習したい。速いパス回しと攻撃でのフットワークをもっと使って習ったプレーを生かしたい。縦ブロックの後ろをフローターと一緒に動くプレイはしっかり身につけたい。みんなが視野の広いプレーヤーになれるように。

◇7月28日　午前、天候・雨、場所・多目的グラウンド、チーム名・宮城教育大学、講師名・宮元先生、記入者・西村ゆかり。

〈教育内容〉試合　横浜国立大対信州・宮教大　9対4。

〈感想〉本当はあと2試合あるはずだったのに、雨で中止となり、とても残念（?!）でした。それでも今までの試合の中でみんな1番いい動きをしたと思う。試合なれもして、あまり疲れを見せなかった。後半10分にパスミス、キャッチミスが目立ったが、はじめておもしろいと感じた試合だった。

第20回全日本教職員選手権

わかくさクラブ〈男子〉都クラブ〈女子〉に栄冠

（8月8日〜12日：鳥取県境港市）

男子

▼1回戦

宮城教員（宮城）25—14 滋賀ハンターズ（滋賀）
岡山教員（岡山）34—17 京都教員A（京都）
東京教員チーム（東京）41—17 ATF（愛知）
三重教員（三重）25—19 愛媛教員ク（愛媛）
福岡教員（福岡）25—17 富山教員B（富山）
宮崎教員（宮崎）37—12 和歌山クA（和歌山）
福井教員（福井）17—11 山口県教員団A（山口）
熊本教員（熊本）21—9 奈良教職員（奈良）
静岡県教員団（静岡）28—26 広島県教職員（広島）
島根教員（島根）31—31 岐阜教員（岐阜）（3 PTC 2）
オールドイーグルス（大阪）23—19 神奈川教員B（神奈川）
大分教員ハンドボールク（大分）28—27 知多ク（愛知）
山梨教員（山梨）24—23 岡山白桃ク（岡山）
大阪教員（大阪）22—18 若潮クA（千葉）
京都教員B（京都）30—13 山口県教員団B（山口）
香川教員（香川）34—22 和歌山クB（和歌山）
茨苑ク（茨城）21—20 熊本教員オールド（熊本）

▼2回戦

栃の葉ク（栃木）28—24 宮城教員
東京教員チーム 32—21 岡山教員
千葉教員（千葉）32—18 三重教員
大阪イーグルス（大阪）35—12 福岡教員
埼玉教員ク（埼玉）30—21 宮崎教員
福井教員 26—16 大阪ハンターズ（大阪）
神奈川教員A（神奈川）23—17 熊本教員
あかぎク（群馬）27—16 静岡県教員団
わかくさク（奈良）32—12 島根教員
富山教員A（富山）16—14 オールドイーグルス
埼　玉（埼玉）22—21 大分教員ハンドボールク
スワロー兵庫（兵庫）26—16 山梨教員
大阪教員 30—10 福島教員ク（福島）
京都教員B 30—19 長野教員チーム（長野）
境港市教職員ク（鳥取）31—13 香川教員
茨苑ク 28—16 滋賀教員（滋賀）

▼3回戦

栃の葉ク 23—19 東京教員チーム
大阪イーグルス 25—17 千葉教員
埼玉教員ク 23—11 福井教員
あかぎク 24—17 神奈川教員A
わかくさク 22—10 富山教員A
スワロー兵庫 30—17 埼　玉
京都教員B 17—10 大阪教員
境港市教職員ク 31—13 茨苑ク

▼準々決勝

大阪イーグルス 19（12—7 7—10）17 栃の葉ク
あかぎク 24（14—7 10—10）17 埼玉教員
わかくさク 21（11—9 10—6）15 スワロー兵庫
京都教員B 17（7—6 10—4）10 大阪教員

▼準決勝

あかぎク 23（11—9 12—8）17 大阪イーグルス
わかくさク 25（11—11 14—5）16 京都教員B

▼3位決定戦

大阪イーグルス 31（16—7 15—8）15 京都教員B

▼決勝

わかくさク 27（13—13 14—11）24 あかぎク

女子

▼1回戦

栃の葉女子教員チーム（栃木）13—10 桜球会（富山）
愛知教員女子クラブチーム（愛知）22—15 滋賀ク（滋賀）
兵庫教員風見鶏チーム（兵庫）17—12 神奈川教員女子（神奈川）
大阪教員女子チーム（大阪）17—5 茨苑女子（茨城）

▼2回戦

都ク（京都）23—8 栃の葉女子教員チーム
愛知教員女子クラブチーム 17—13 埼玉白小鳩教員チーム（埼玉）
千葉ク（千葉）14—9 兵庫教員風見鶏チーム
大阪教員女子チーム 17—15 福岡教員（福岡）

▼準決勝

都ク 18（5—8 9—6 2—2 2—2 3 PTC 2）18 愛知教員女子クラブチーム
千葉ク 17（7—2 10—3）5 大阪教員女子チーム

▼3位決定戦

愛知教員女子クラブチーム 20（8—8 12—5）13 大阪教員女子チーム

▼決勝

都ク 18（7—7 11—9）16 千葉ク

第4回全国クラブ選手権
大同クラブ〈男子〉あゆみクラブ〈女子〉に栄冠
（8月17日～19日：山口県徳山市）

男子

▽予選リーグ

○A組
大同ク（愛知）25—6 武庫工ク（兵庫）
大同ク 22—21 徳山ク（山口）
徳山ク 25—18 武庫工ク
【順位】①大同ク②徳山ク③武庫工ク

○B組
日川ク（山梨）24—11 下松ク（山口）
日川ク 25—10 新居浜ク（愛媛）
新居浜ク 22—16 下松ク
【順位】①日川ク②新居浜ク③下松ク

○C組
セブンスターズ（三重）23—15 氷見ク（富山）
セブンスターズ 32—10 八代ク（熊本）
氷見ク 27—10 八代ク
【順位】①セブンスターズ②氷見ク③八代ク

○D組
桜門ク（東京）20—17 雪陵ク（大阪）
桜門ク 27—17 境港市ク（鳥取）
境港市ク 19—11 雪陵ク
【順位】①桜門ク②境港ク③雪陵ク

○E組
下関ク（山口）23—20 筑波振球会（茨城）
下関ク 23—15 高知ク（高知）
高知ク 18—16 筑波振球会
【順位】①下関ク②高知ク③筑波振球会

○F組
滋賀ク（滋賀）18—15 二俣ク（静岡）
滋賀ク 24—11 龍登園ク（佐賀）
龍登園ク 16—13 二俣ク
【順位】①滋賀ク②龍登園ク③二俣ク

○G組
岩国ク（山口）20—15 小松ク（石川）
岩国ク 28—17 県和商ク（和歌山）
小松ク 25—24 県和商ク
【順位】①岩国ク②小松ク③県和商ク

○H組
花巻ク（岩手）25—10 日立栃木ク（栃木）
花巻ク 27—14 天城ク（岡山）
天城ク 16—16 日立栃木ク
【順位】①花巻ク②天城ク③日立栃木ク

▽決勝トーナメント1回戦
大同ク 24（13—7 11—4）11 天城ク
日川ク 24（14—8 10—3）11 小松ク
セブンスターズ 26（13—5 13—7）12 龍登園ク
桜門ク 27（12—9 15—12）21 高知ク
下関ク 15（5—11 10—3）14 境港市ク
滋賀ク 19（9—7 6—3 2—3 2—1 2PTC1）19 氷見ク
岩国ク 24（15—6 9—9）15 新居浜ク
花巻ク 27（12—6 15—9）15 徳山ク

▽2回戦
大同ク 20（11—9 9—9）18 日川ク
セブンスターズ 23（11—9 12—7）16 桜門ク
下関ク 23（14—9 9—11）20 滋賀ク
岩国ク 22（11—10 11—11）21 花巻ク

▽準決勝
大同ク 17（8—9 9—5）14 セブンスターズ
岩国ク 13（8—6 5—6）12 下関ク

▽3位決定戦
セブンスターズ 20（10—8 10—9）17 下関ク

▽決勝
大同ク 18（10—1 8—12）13 岩国ク

女子

▽予選リーグ

○イ組
あゆみク（三重）11—7 オレンジク（栃木）
あゆみク 17—5 広島ク（広島）
オレンジク 12—7 広島ク
【順位】①あゆみク②オレンジク③広島ク

○ロ組
光電ク（群馬）14—10 琵琶湖ク（滋賀）
光電ク 9—9 徳山ク（山口）
光電ク 14—8 神埼ク（佐賀）
神埼ク 9—5 琵琶湖ク
神埼ク 11—8 徳山ク
徳山ク 12—11 琵琶湖ク
【順位】①光電ク②神埼ク③徳山ク④琵琶湖ク

○ハ組
武蔵野ク（東京）11—11 ポストク（静岡）
武蔵野ク 13—10 大阪コスモス（大阪）
武蔵野ク 16—13 大分東シニヤ（大分）
ポストク 10—7 大分東シニヤ
ポストク 11—4 大阪コスモス
大阪コスモス 10—9 大分東シニヤ
【順位】①武蔵野ク②ポストク③大阪コスモス④大分東シニヤ

○ニ組
古都ク（京都）15—12 シャトレーゼク（山梨）
古都ク 17—4 富山想球会（富山）
古都ク 11—10 天城ク（岡山）
天城ク 13—9 シャトレーゼク
天城ク 16—3 富山想球会
シャトレーゼ 19—3 富山想球会
【順位】①古都ク②天城ク③シャトレーゼク④富山想球会

▽決勝トーナメント1回戦
あゆみク 14（8—3 6—1）4 天城ク
武蔵野ク 12（7—4 5—6）10 光電ク
神埼ク 11（7—6 4—4）10 ポストク
古都ク 13（6—4 3—5 1—1 3—6）10 オレンジク

▽準決勝
あゆみク 13（6—5 7—3）8 武蔵野ク
神埼ク 8（6—5 2—2）7 古都ク

▽3位決定戦
武蔵野ク 15（7—3 8—7）10 古都ク

▽決勝
あゆみク 14（6—6 8—1）7 神埼ク

東日本学生選手権

〈8月21日〜25日：青森県野辺地町〉

〈男子〉 日大が優勝

▼予選リーグ

○Aブロック
筑波大 42−17 東北学院大
筑波大 44−9 埼玉大
東北学院大 29−23 埼玉大

○Bブロック
国士館大 35−14 山形大
国士館大 35−17 神奈川大
国士館大 27−13 函館大
函館大 31−15 山形大
函館大 23−19 神奈川大
神奈川大 26−21 山形大

○Cブロック
日体大 37−15 北海道大
日体大 27−27 仙台大
日体大 38−15 横浜国大
仙台大 19−13 北海道大
仙台大 38−24 横浜国大
北海道大 29−19 横浜国大

○Dブロック
慶応大 32−14 明治大
慶応大 31−11 金沢大
慶応大 25−14 東京学芸大
金沢大 28−24 明治大
金沢大 20−20 東京学芸大
明治大 20−19 東京学芸大

○Eブロック
日本大 31−12 順天堂大
日本大 33−4 福島大
順天堂大 23−15 福島大

○Fブロック
中央大 28−25 東海大
中央大 38−9 東北工大
中央大 32−22 駒沢大
東海大 27−10 東北工大
東海大 20−15 駒沢大
駒沢大 22−15 東北工大

○Gブロック
早稲田大 41−6 弘前大
早稲田大 30−17 東京大
早稲田大 36−17 北教大旭川分
東京大 30−16 弘前大
東京大 24−22 北教大旭川分
北教大旭川分 33−12 弘前大

○Hブロック
法政大 25−16 岩手大
法政大 28−12 金沢工大
法政大 30−7 立教大
岩手大 20−16 金沢工大
岩手大 24−19 立教大
金沢工大 31−28 立教大

※以上の結果、各ブロック1位の筑波大、国士館大、日体大、慶応大、日本大、中央大、早稲田大、法政大の各校が決勝トーナメントに進出。

▼決勝トーナメント1回戦
日本大 31（15−5、16−12）17 法政大
筑波大 31（16−9、15−8）17 早稲田大
中央大 33（17−17、16−9）26 日体大
国士館大 33（18−12、15−10）22 慶応大

▼準決勝
日本大 29（16−14、13−12）26 筑波大
国士館大 35（20−18、15−15）33 中央大

▼3位決定戦
筑波大 34（21−9、13−12）21 中央大

▼決勝
日本大 25（14−6、11−8）14 国士館大

ベスト7
GK 宮田裕己（日本大）
FP 金原理博（日本大）
内藤裕治（日本大）
内藤浩樹（国士館大）
綿引　智（国士館大）
杉森弘幸（筑波大）
清家仲治（中央大）

〈女子〉 日体大が優勝

▼予選リーグ

○Aブロック
日体大 21−20 日女体大
日体大 34−6 福島大
日体大 17−9 東京学芸大
日女体大 26−8 福島大
日女体大 15−9 東京学芸大
東京学芸大 23−7 福島大

○Bブロック
東女体大 18−11 筑波大
東女体大 29−7 東海大
東女体大 32−6 岩手大
筑波大 20−8 東海大
筑波大 33−6 岩手大
東海大 22−16 岩手大

※以上の結果、各ブロックの1、2位の日体大、日女体大、東女体大、筑波大の各校が決勝トーナメントに進出。

▼準決勝
日体大 39（22−9、17−10）19 筑波大
東女体大 35（17−2、18−6）8 日女体大

▼3位決定戦
筑波大 22（14−4、8−7）11 日女体大

▼決勝
日体大 27（16−6、11−15）21 東女体大

▼ベスト7
GK 塩畑久美（日体大）
FP 宮田由紀子（日体大）
小口智子（日体大）
吉岡典子（日体大）
大野美加（日体大）
篠原幸子（東女体大）
小池宏子（東女体大）

西日本学生選手権

〈6月28日～7月1日：福岡市〉

〈男子〉

大体大が優勝

▼1回戦

大阪体育大 34－16 長崎大
名城大 25－17 京都大
久留米工大 27－23 松山商科大
近畿大 29－23 広島大
中京大 31－19 福岡教育大
西南学院大 42－20 立命館大
山口大 24－16 愛知教育大
天理大 38－18 桃山学院大
同志社大 38－18 愛知学院大
名古屋工大 28－19 大阪経済大
大阪学院大 32－31 九州産業大
大阪大 28－19 鳥取大
福岡大 33－18 京都産業大
京都教育大 26－17 熊本商科大
関西大 27－24 愛媛大
中部大 41－19 九州大

▼2回戦

大阪体育大 34－16 名城大
久留米工大 27－18 近畿大
中京大 33－16 西南学院大
天理大 26－23 山口大
同志社大 41－8 名古屋工大
大阪大 23－22 大阪学院大
福岡大 28－12 京都教育大
中部大 33－18 関西大

▼準々決勝

大阪体大 37〔2017／1611〕27 久留米工大
中京大 33〔1617／1412〕26 天理大
同志社大 32〔1616／12 5〕17 大阪大
中部大 28〔1711／1313〕26 福岡大

▼7位決定戦

天理大 34〔1717／1414〕28 久留米工大
福岡大 27〔1512／1210〕22 大阪大

▼5位決定戦

大阪大 20〔11 9／7 11〕18 久留米工大

▼準決勝

大阪体大 31〔1714／5 6〕11 中京大
中部大 28〔1216／7 10〕17 同志社大

▼3位決定戦

中京大 31〔1714／10 7〕17 同志社大

▼決勝

大阪体大 33〔1419／8 7〕15 中部大

▼ベスト7

GK 徐 義揮（大阪大育大）
FP 小間洋一（大阪体育大）
坂本 充（大阪体育大）
河原隆雅（中部大）
馬場 浩（中部大）
酒巻清治（中部大）
三幸秀喜（同志社大）

〈女子〉

武庫川女大が優勝

▼1回戦

福岡教育大 27－24 天理大
武庫川女大 35－5 岡山県短大
福岡大 25－14 大阪成蹊女短大
九州女短大 19－12 山口大
中京大 26－11 京都教育大

▼準々決勝

大阪体大 53〔3023／8 4〕12 福岡教育大
武庫川女大 26〔1115／1110〕21 中京女大
福岡大 24〔16 8／6 8〕14 九州女短大
大阪教育大 21〔1110／6 9〕15 中京大

▼準決勝

武庫川女大 13〔6 7／5 7〕12 大阪体育大
大阪教育大 21〔1110／6 14〕20 福岡大

▼3位決定戦

大阪体育大 35〔1520／2 7〕9 福岡大

▼決勝

武庫川女大 16〔7 9／7 6〕13 大阪教育大

▼ベスト7

GK 三宅由恵（武庫川女大）
FP 寄田とし子（武庫川女大）
岡山房代（武庫川女大）
池上由美（大阪体育大）
藤田みゆき（大阪体育大）
西川純子（大阪教育大）
小倉幸恵（大阪教育大）

今大会、男子は大体大対中部大という関西と東海の対決となった。パワーと高さで初制覇を狙う中部大に対し持ち前のスピードとテクニックで昨年の雪辱を期する大体大の争いは、前半の立ち上がりから大体大が一気に勢いに乗り、前半にして大差をつけて勝負を決定づけた。

女子は、予想通り関西上位3校の争いとなったが、3連覇を目ざす大体大が準決勝で武庫川女大に敗れて夢破れた。決勝はその武庫川と苦戦の末福岡大を破った大教大の対戦となったが、春のリーグ戦で敗れていた武庫川が激しい気力で挑み、前半のリードを守って逃げ切り、3年ぶりに王座に返り咲いた。

イオン・クンスト〈ルーマニア〉のハンドボール

59年2月6日　午後の研修内容

担当日本女子体育大学　笹倉清則

今日は、6日午前のオフェンスの型についての実技ですので、第5報と合わせて御覧下さい。

1．いろいろなパスワーク

図—1　サイドは回り込みながらセンターにパスをし、ゴールエリアライン上をスピードをゆるめずに走る。センターは、シュートをねらいながら、再び走り込んできたサイドプレーヤーにパスをする。それをくり返す。

単純な練習ですが、相手がとりやすいところへ正確なパスをするとか、スピードを落とさないなどに注意して行うと、技術的にも、肉体的にも精神的にも大変良くなります。

図—2　今度は、両サイドと左右の45度で行います。左サイドは回り込みながら左45度にパスし、ゴールエリアを走る。左の45度に回り込みながら右45度にパスをし、右45度は走り込んできたサイドプレーヤーにパスをする。そして逆のサイドがそれに合せ走り出し、ボールをもらい同様の動きをする。この練習の時も、まずスピードを落とさない事と、フローターは、シュートのための位置どりと正確なフォームを作りながら行うことが大切です。

図—3　前記したと同様の態形ですが、サイドは回り込みながら逆45度にパスをし、走り込みポストで再びリターンパスをもらう。そして逆のサイドがそれに合せスタートし、これをくり返す。

図—4　両サイドと両45度とセンタープレーヤーの5ポイントで行います。右サイドプレーヤーは回り込みながらセンターにパスをし、そのまま走り込みセンターからリターンパスをもらい逆サイドへパス、逆サイドは走り込みながら左45度へパス、その後、そのままエリアライン付近を走る。左45度は、シュートをねらいながら逆の45度へパス、逆の45度（右45度）は、走ってきたサイドプレーヤーへシュートをねらいながらパスをする。これをくり返します。

サイドプレーヤーは走る時、ルールを守りましょう。（ゴールエリアラインを踏んだりしない）

フローターは、前へステップする時に、常に自分が勝負できるポジションへ入る様にします。

図—5　今度は、最初はセンターの位置にいるが、左サイドへパスした後、左45度の後につく、走り込みながらボールをもらったサイドプレーヤーは、左の45度へパス、左45度は、前を攻めながら逆のサイドプレーヤーへ、逆サイドは走り込みながらボールをうけ右45度へパスする。これをくり返します。この時、フローターはフリースローラインの内に入らない。また、常にスピードで行う。

最後に、センターの人がパスワークの最中に指示し、その指示に従って①フローターのピストン（図—4）か、3人のクロス（図—5）かのパスワークを行います。フローター3人のリズムが一番大切です。

2．ポストプレイ

図—6　これは、3人のフローター、両サイドのパスワークに、ポストが合わせて動く練習です。ポスト以外の人は、自由に位置ど

〈図1〉

〈図2〉

〈図3〉

〈図4〉

〈図5〉

〈図6〉

りしながら、ポストへパスして下さい。ポストは、パスにタイミングを合わせ動きます。また、動きも止まったり、ダッシュしたり区別しながら動きます。

図―7　ポストシュートこれは前回報告（第5報）で説明しました。ポストは少し離れて左足を前に出しDEFから少し離れてシュートします。この練習の時、必ずGKは入って下さい。そして、シュートは、バーにあたってもそれは失敗です。

図―8　今度は逆です。この時は、左足を少し横に出して、DEFから少し離れながらシュートします。バレーボールの時のジャンプを思い浮べ、瞬間的にジャンプして下さい。（一動作でジャンプする）

図―9　DEFがポストプレーヤーの右にいて、もう一人増えた時、大変むづかしくなります。右足を少し前に出し、左足を素早く後ろへ引きジャンプします。左足は、ゴールへ向ってまっすぐ引かずに、少しエリアラインにそって引きます。

今度は、逆の位置に2人のDEFがいる場合のシュートです。この時は、特別な技術をつかいます。（図―10）左足を少し前へ出してふり向きながら、右足でジャンプをしてシュートする方法です。

図―11　これは、同じポストシュートの練習です。ポストとDEFが1対1の状況でのシュート練習です。DEFは、少し乱暴について下さい。

3．クロスプレイ（パスワークの中で）

図―12　これは、両サイド、両45度、センターがポジションを固定したままパスワークします。そして、センターのカットインに45度が合わせてクロスシュートします。

ロングシュートは、7mぐらいの距離からポストが手を伸ばした高さの上からシュートします。左右同様にクロスでシュートして下さい。

図―13　今度は少しむずかしいやり方をします。左サイドが走りカットインしてポストに（エリアライン）に入る。そして、元いたポストは、そのサイドがいたポジションに入ります。ポストに近い方からカットインします。上3人のフリーのパスワークに合わせ、下3人はローリングします。そして最後はセンターに合わせ45度がクロスしてロングシュートします。センターと45度のクロスの時、ポストは横へ流れずにバラバンできる様にする。

今までやっていた練習に、6人を入れてやります。DEFは、ピストンをしっかりかりします。センターは、大声で指示〝ピストンetc〟と!!そのパスワークの中でクロスでロング、もしCはWクロスでロングという様に行います。やってみましょう。まず、パスワークの指示、パスワークの中でクロス、Wクロスの指示を大声でやります。

ボールをまわしている時、ポストプレーヤーはDEFの前に位置

〈図7〉

〈図8〉

〈図9〉

〈図10〉

〈図11〉

〈図14〉

〈図13〉

〈図12〉

する様にします。サイドプレーヤーもパスをする時は、浮いてきてまたしずみます。同じ位置にいない様にします。

図—14　もう一通りの攻撃の仕方を教えます。それは、サイドプレーヤーが浮いて来て、パスを45度にし、次にすぐ戻り、45度からリターンパスに合わせシュートします。

このリターンパスは、1試合に2、3回だけしか出来ません。しかし、確実に出来れば得点できます。

こういう攻撃の時大切な事は、試合と同様の気持ちになることです。それでは、1点入ったらDEFは屈伸10回か腕立て10回しましょう。

4．パラパンプレイ

次に、フリースローからのシュートをします。

図—15　ポイントに3人立ち、そこから1mの所にロングシューターは位置します。構えている時、右足は少し前に出し、小さいジャンプをして飛び上がる。

図—16　今度は、一人によるパラパンでシュートします。パスワークをしていてセンターがカットインして、ロングシューターの前のDEFの前に入ります。そして、パラパンし、その上からジャンプシュートします。

センターの人は、チームの為にギセイ的精神となり、一生懸命やります。もっと努力すると大変よくなります。

5．マンツーマンプレイに対する攻撃

図—17　左45度にマンツーマンにつかれた時の攻撃です。マンツーマンにつかれているフローターは、前へ行きDEFを避け、また後方へ戻りボールをもらえるようにします。センターは、カットインして45度についているDEFをブロックしてやり、ロングシュートさせる。また、センターのブロックとロングシュートを有効にするためには、マンツーマンにつかれているフローターは、フリースローライン近くにまでDEFを引っぱっていくと、シュートしやすいです。

もう一つの方法は、マンツーマンにつかれたフローターは、ハーフ付近まで下がる方法があります。しかし、ルーマニアでは、この様にします。フローターは前へ後ろへと移動し、DEFをふる事を考えます。

図—18　最初は、両45度とセンターで位置し、マンツーマンにつかれている左のフローターは、左のサイドプレーヤーのカットインに合わせ左サイドへ行く。次に45度の位置に来たセンターが45度DEFからサイドDEF（マンツーマンのDEF）の内ブロックに入ったところをサイドにいたロングシューターが回り込んでロング、もしくはポストへパスをします。

図—19　次は、サイドからのパスに合わせてセンターが45度にマンツーマンしているDEFにブロックに行き、ロングシュートを打たせます。この時は、フローターの人は、マンツーマンのDEFを外（サイド側）へ少しはずし、パスをもらいやすくすると同時に、センターがブロックしやすいようにします。

図—20　今度は、センターが逆（右45度）にパスをし、その後すぐ左45度のマンツーマンについているDEFにブロックに行き、右45度から左45度のパスの時、45度がブロックを利用してロングシュートをします。センターのブロックする人は〝ネコ〟の様に足をひそめてブロックに行きます。

図—21　今度、マンツーマンについているDEFにポストがブロックに行きロングシュートする方法です。この時は、マンツーマンされているロングシューターが、フリースローラインの内に入ります。（ポストの位置ぐらい）そして、センターのパスに合わせ瞬間的に浮き、これにポストのブロックが合わせDEFを抜いてロングシュートをします。

図—22　今度は、前記のポストのブロックと、センターのブロック2枚のブロックで、フローターにロングシュートさせる方法です。

今度は、右45度で同じ2枚のブロックでロングシュートします。

それでは、フリーにマンツーマンにつかれた状況からオフェンスをして下さい。いろいろな方法で攻めて下さい。

図—23　①サイドとフローターのクロス

図—24　②センターと左45度（マンツーマンされている）とのクロスからブロックターンでシュートをします。

図—25　③②と同様のセンター

〈図15〉

〈図16〉

〈図17〉

〈図18〉

〈図19〉

〈図20〉

〈図23〉〈図22〉〈図21〉〈図26〉〈図25〉〈図24〉〈図29〉〈図28〉〈図27〉

と45度のブロックです。

左サイドからのパスに合わせ、ブロックしてシュートをねらいながら一人ずつずらし、右サイドでシュートします。

図―26　④これは、フローターがパスをしながら45度の人（マンツーマンされている）が、サイドのカットインに合わせサイドへ行き、そして、2～3回パスワークをしたら再び戻る。これは、コートを3対3として攻撃するやり方ですが、もちろん試合の時はいろいろな状態での練習が必要である。また、オフェンスが動かないとDEFは動きませんし、シュートする気で動かなければ、動きも意味がありません。

図―27　⑤これも3対3を作る方法で、マンツーマンされている45度が前のDEFにフェイントしてポストへ入る。その後、その45度のポジションへセンタープレーヤーが移動し、最初にいるポストが逆のポストへ移動し、3対3の状態を作るやり方です。

では、フローター3人（センタースリー）の状況から、④か⑤の型で3対3の状態になりパスワークを行い、2～3回で45度は再びポジションに戻り、そこからまた④か⑤の方法で、3対3の状態になります。これを指示しながらくり返して下さい。

6　ダブルポストの攻撃

図―28　今度は違う事をやります。図の様に、最初からダブルポストの型でパスワークします。左サイドにボールがある時に、両方のポストプレーヤーは、位置を入れ換って下さい。ポストプレーヤーがかわる時、4人のDEFが動かなければなりません。だから有効なのです。当然、ポストプレーヤーがポジションをかえる時に、シュートを打つチャンスがあればシュートして下さい。

図―29　今度は、フローター3人（センタースリー）の型でパスワークをします。そのうちセンターがサイドへパスし、そのままパスしたサイドの位置へ行き、ダブルポストの型をつくります。そ

して、ポストのチェンジを始め2〜3回パスワークした後、再びセンターに戻り、ポストが1人サイド行き、センタースリーのコートパラバンをつくり、またセンターとサイドの交替からダブルポストと、コートバランスを取りながらパスワークを続けます。

図―30　今度は、右の45度がフェイントをかけながらカットインし、左のポストへ流れます。そして、ダブルポストの型になります。この時も前の型と同様パスワークに合わせ2人のポストの位置が入れ換ります。これもくり返して下さい。また、右のサイドからのパスに合わせて、右45度はフェイントからポストへ流れ、サイドからのパスをセンターは、45度の位置へ移動しながらパスワークをします。また、この型では、ポストは右45度とサイドの間にいて下さい。

図―31　もう一つ特別な方法を教えます。これは、この前の型でダブルポストをつくる方法で、45度に移動したセンターから逆の45度へパス、すぐセンターにリターンパスをします。この時、初めからいるポストは、45度DEFの外をブロックし、このブロックを利用してセンターはシュート、もしくは、サイドへパスしてサイドシュートをします。

それでは、今までやった型を自由にいろいろ行って下さい。センターは、自分達のやり方を大声で〃これやるぞ!!〃と言いながらやって下さい。ルーマニアでは、大声でやります。その指示に合わせタイミングよくコートバランスをとりながらパスワークして下さい。シュートチャンスがあったらシュートして下さい。

7　1―5DEFの攻撃　図―32　まず、1―5のDEFをみてみましょう。トップの人は、シュート出来ない様に守ってみて下さい。オフェンスは自由に攻撃して下さい。

なかなかいいDEFです。トップは今の様に45度が動いた後のフォローをする事が大切です。では、攻撃に移ります。

図―33　これは、ポストは左にいます。パスワークをしながらセンターと右45度がクロスをしてシュートをねらいます。それに合わせ左45度のシューターが、前（トップと45度の間）にシュートをねらいに行き、シュートかポストへパスか、また、ポストからサイドへずらしてシュートをねらうやり方です。

図―33　今度は、左45度と右45度のパスの間にセンターは左45度と、センターDEFの間へカットインします。これに合わせて、左の45度とサイドの間にいるポストが逆の45度の方へ流れます。逆の45度はパスを受け、シュートするかポストへパスか、また、ずらしてサイドでシュートするかというやり方です。

〈図30〉

〈図31〉

〈図33〉

〈図32〉

〈図34〉

各地の記録から

佐賀県高校総体
（6月2・3日）

〈男子〉
▼リーグ戦
神埼 38－13 佐賀西
佐賀農 23－18 佐賀東
神埼 30－14 佐賀農
神埼農 27－10 佐賀東
神埼農 31－9 佐賀西
佐賀東 16－14 佐賀西
神埼農 23－16 佐賀農
神埼 31－15 佐賀東
佐賀農 19－16 佐賀西
神埼農 20－16 神埼

〔順位〕①神埼農②神埼③佐賀農

〈女子〉
▼リーグ戦
神埼 31－2 東松浦
佐賀女 21－7 嬉野商
神埼農 22－3 佐賀東
嬉野商 31－3 東松浦
神埼農 24－7 神埼
佐賀女 17－1 佐賀東
神埼農 38－4 東松浦
佐賀東 29－1 東松浦
佐賀女 14－14 神埼農
神埼 10－9 嬉野商
佐賀女 33－1 東松浦
神埼農 25－8 嬉野商
佐賀東 11－8 神埼
嬉野商 12－10 佐賀東
佐賀女 35－1 神埼

〔順位〕①佐賀女②神埼農③嬉野商

全国高校東京都予選

〈男子〉
○Aブロック
▼1回戦
武蔵村山東 16－14 創価
石神井 24－13 城北
両国 19－8 小石川工
水元 18－17 鷺宮
武蔵 14－6 明星学園
調布北 15－10 東大和
南 キケン 荻窪
佼成 19－18 東
葛飾野 20－13 大泉北

▼2回戦
武蔵村山東 39－11 松ヶ谷
府中東 34－7 五商
石神井 28－10 開成
両国 18－17 水元
武蔵 20－15 秋留台
調布北 28－12 南多摩
佼成 19－18 南
葛飾野 28－10 筑波大付

▼3回戦
武蔵村山東 25－14 府中東
石神井 27－4 両国
武蔵 18－16 調布北
葛飾野 18－17 佼成

▼4回戦
石神井 25－22 武蔵村山東
武蔵 19－16 葛飾野

▼5回戦
府中 26－14 石神井
日体荏原 22－16 武蔵

▼6回戦
日体荏原 22－15 府中

※日体荏原が決勝リーグへ。

○Bブロック
▼1回戦
東村山 19－13 砂川
八王子東 20－17 昭和一
小岩 17－12 西
筑波大駒場 17－12 江北
大泉 キケン 城西
国立 27－15 清瀬
南野 27－10 田無工
杉並 16－7 目黒
墨田川 41－14 蒲田

▼2回戦
東村山 37－11 昭和
科学学園 12－10 八王子東
小岩 35－7 深川
筑波大駒場 26－12 大泉
国立 29－5 羽村
南野 17－16 日野台
杉並 18－13 駒大
墨田川 37－4 駿台学園

▼3回戦
東村山 40－14 科学学園
筑波大駒場 16－15 小岩
国立 28－23 南野
墨田川 18－14 杉並

▼4回戦
筑波大駒場 13－9 東村山

▼5回戦
墨田川 23－16 国立
学芸大附 22－16 筑波大駒場
神代 24－7 墨田川

▼6回戦
神代 18－14 学芸大附

※神代が決勝リーグへ。

○Cブロック
▼1回戦
野津田 13－12 北多摩
三鷹 19－9 富士森
成城 19－11 上野
農大一 23－6 世田谷工
小平西 19－12 清瀬東
久留米 25－18 館
練馬 26－17 東京
光丘 22－12 南葛飾
広尾 23－12 日大二

▼2回戦
中大附 30－4 野津田
三鷹 23－8 田無
富士 26－14 成城
農大一 20－13 修徳
小平西 27－12 秋川
久留米 26－11 東京菅生
光丘 19－11 練馬
早大学院 20－16 広尾

▼3回戦
中大附 31－6 三鷹
農大一 20－11 富士
小平西 21－19 久留米
早大学院 19－15 光丘

▼4回戦
中大附 22－14 農大一
早大学院 30－11 小平西

▼5回戦
明星 30－18 中大附
日野 21－15 早大学院

▼6回戦
明星 32－16 日野

※明星が決勝リーグへ。

○Dブロック

▼1回戦
錦城 15－12 府中西
小金井北 35－7 忠生
青山学院 22－7 本所
四谷商 24－13 青山
新宿 35－11 武蔵工大附
国分寺 29－12 福生
井草 25－8 豊多摩
篠崎 12－7 園芸
早実 22－16 雪谷

▼2回戦
錦城 25－19 立川
小金井北 33－不明 武蔵村山
青山学院 22－3 大泉学院
新宿 22－9 四谷商
国分寺 37－11 保谷
八王子工 23－11 武蔵野北
井草 19－12 篠崎
早実 22－11 明正

▼3回戦
小金井比 28－23 錦城
新宿 23－19 青山学院
国分寺 32－11 八王子工
早実 24－20 井草

▼4回戦
新宿 24－17 小金井北
国分寺 21－16 早実

▼5回戦
拓大一 22－16 新宿
江戸川 27－19 国分寺

▼6回戦
江戸川 32－15 拓大一
※江戸川が決勝リーグへ。

▼決勝リーグ
日体荏原 18（9－9、10－6）16 神代
江戸川 19（12－9、7－8）17 明星
明星 28（17－7、11－13）20 日体荏原
江戸川 25（13－7、12－10）17 神代
日体荏原 22（10－10、12－11）21 江戸川
明星 23（11－7、12－6）13 神代

〔順位〕①明星②江戸川③日体荏原④神代 ※1位から3位は得失点差による。

〈女子〉

○Aブロック

▼1回戦
青山学院 18－15 農大一
富士森 12－10 清瀬東
篠崎 キケン 荻窪

▼2回戦
東大和 19－3 武蔵野女
拓大一 12－5 永山
青山学院 22－5 三商
広尾 5－1 目黒
国分寺 28－5 武蔵野北
富士森 23－0 福生
篠崎 10－7 本所
墨田川 12－10 立教女

▼3回戦
東大和 22－8 拓大一
青山学院 8－6 広尾
国分寺 12－7 富士森
墨田川 13－5 篠崎

▼4回戦
青山学院 10－3 東大和
墨田川 16－11 国分寺

▼5回戦
佼成学園 18－8 青山学院
墨田川 10－9 西

▼5回戦
佼成学園 22－4 墨田川
※佼成学園が決勝リーグへ。

○Bブロック

▼1回戦
国立 8－7 日野台
井草 9－4 武蔵丘
大泉学園 12－10 大泉北

▼2回戦
二商 24－3 小金井北
国立 12－2 羽村
井草 32－4 水元
関東女 9－5 光丘
武蔵村山東 13－0 府中
小平 21－4 館
小岩 10－9 大泉学園
深川 7－6 葛飾商

▼3回戦
二商 6－4 国立
井草 16－7 関東女
小平 12－9 武蔵村山東
小岩 19－7 深川

▼4回戦
二商 14－10 井草
小平 23－8 小岩

▼5回戦
神代 16－5 二商
日体桜華 19－14 小平

▼6回戦
神代 10－8 日体桜華
※神代が決勝リーグへ。

○Cブロック

▼1回戦
南野 10－7 松ケ谷
園芸 12－6 鷺宮
東村山 11－8 府中東
葛飾野 キケン 永福

▼2回戦
吉祥女 8－2 調布北
南商 4－3 保谷
江東商 14－3 園芸
豊多摩 9－5 南葛野
昭和 15－4 武蔵
東村山 24－5 田無
葛飾野 7－6 学芸大附
富士 20－8 四谷商

▼3回戦
南野 11－6 吉祥女
江東商 27－4 豊多摩
東村山 30－8 昭和
葛飾野 7－4 富士

▼4回戦
江東商 19－6 南野
東村山 14－11 葛飾野

▼5回戦
藤村女 13－11 江東商
桐朋 15－10 東村山

▼6回戦
桐朋 21－8 藤村女
※桐朋が決勝リーグへ。

○Dブロック

▼1回戦
日野 24－0 清瀬
南 9－8 江戸川
明正 11－10 菊華

▼2回戦
明星学園 22－4 砂川
日野 17－1 八王子東
南 15－8 雪谷
白鴎 キケン 日大二
府中西 11－6 五商
共立 17－7 小平西
明正 12－11 杉並
上野 5－0 練馬

▼3回戦
明星学園 9－8 日野
南 13－5 白鴎
府中西 14－5 共立
明正 10－5 上野

▼4回戦
明星学園 17－9 南
府中西 16－14 明正

▼5回戦
明星学園 11－8 石神井
桜水商 24－1 府中西

▼6回戦
桜水商 19－2 明星学園
※桜水商が決勝リーグへ。

11月～12月のハンドボールイベント

第9回日本ハンドボールリーグ〈1部後期〉

月・日	開催地	会場	第1試合	第2試合
11月3日(土)	広島・広島	広島市安芸市スポーツセンター	13：00 大和銀行×東京重機	14：30 湧水製薬×三陽商会
11月4日(日)	福岡・久留米	県立久留米体育館	13：00 プラザー×東京重機	15：00 本田技研鈴鹿×大崎電気
11月10日(土)	北海道・函館	函館市民体育館	16：00 大崎電気×日立栃木	17：40 日新製鋼×本田技研鈴鹿
	熊本・熊本	熊本県民総合体育館	16：00 立石電機×ジャスコ	
11月17日(土)	大阪・大阪	大阪中央体育館	17：00 大和銀行×ビクター	18：20 湧水製薬×大同特殊鋼

〈2部後期〉

月・日	会場	第1試合	第2試合
11月3日(土)	大阪ガス体育館	12：30 トヨタ自動車×大阪ガス	13：50 中村荷役×イーグルス
	(大阪)	15：10 トヨタ車体×三景	16：30 本田技研熊本×日鉄建材
11月4日(日)	〃	10：00 本田技研熊本×大阪ガス	11：20 中村荷役×トヨタ車体
		12：40 三景×イーグルス	14：00 トヨタ自動車×日鉄建材
11月10日(土)	熊本県総合体育館	14：30 トヨタ自動車×本田技研熊本	

第39回国民体育大会ハンドボール競技〈10月12～17日・奈良県生駒市〉

第27回全日本学生選手権〈11月21日～25日・金沢中央体育館〉

第16回全日本自衛隊選手権大会〈12　5日～8日・東京・駒沢屋内競技場〉

第36回全日本総合選手権大会〈12月18日　22日・東京・駒沢体育館、駒沢屋内競技場〉

全国高専大会九州地区予選

▼決勝リーグ

佼成学園 21（8－6、13－6）12 桐朋

桜水商 18（8－6、10－5）11 神代

佼成学園 9（5－4、4－3）7 神代

桜水商 27（12－7、15－5）12 桐朋

佼成学園 11（6－4、5－6）10 桜水商

桐朋 15（9－3、6－6）9 神代

〔順位〕①佼成学園②桜水商③桐朋④神代

（7月8日）

▼1回戦

北九州高専 20－16 都城高専

▼準決勝

有明高専 17－7 北九州高専

八代高専 23－10 鹿児島高専

▼決勝

八代高専 19－7 有明高専

毎日、日本協会にあて各地の結果をお送りいただき有難とうございます。機関誌も現在誌面の都合などで十分に掲載しきれていませんが、今後誌面の充実に務め、より早く、より沢山結果を掲載出来るように致したいと考えております。各地の記録担当の先生方も今後ともより一層記録の送付につき御協力をお願い致します。

（編集委員会）

健康一番
OMRON
健康をチェック。
デジタルでチェック。
むろん! オムロン
若原　瞳
かるくて、かわいく、使いやすいカタチです。
●検温中は、「℃」マークが点滅。点滅ストップで体温の読みとりどきをお知らせします。
●1日1回使っても電池交換は3年に1度。そのうえ、スイッチを切り忘れても10分後には自動的に切れる経済設計です。
オムロン 電子体温計
MC-9 ¥1,600 医療用具番号 58B1125
お知らせブザーがついたセパレートタイプです。
●ライオン・クマ・ネズミと、かわいい動物イラストがついた3タイプとシックなダークブルーをそろえています。
オムロン 電子体温計
けんおんくん
(((お知らせ ブザーつき)))
MC-11B ¥3,000 医療用具番号 58B1569 舌下用
お求めは、薬局・薬店、百貨店、医療機器店などでどうぞ。
立石電機株式会社 健康医用機器事業本部 〒105 東京都港区虎ノ門3-4-10 虎ノ門35森ビル 03(436)7092)

スポーツが好き。汗が好き。

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二三四号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五九年九月二十五日 印刷
昭和五九年十月一日 発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 (481)二三六一
振替 東京 六－五八三四八番
編集兼発行人 大野金一
定価三百五十円
(年間購読料三千三百円)